

れきはくのあしあと



エントランスホールにはお店が並び、久しぶりのにぎわい

11月13日(日)に開館記念イベントを開催しました。今年
は3年ぶりに雑貨や食品販売のお店が集まる「どんぐりマル
シェ」を実施。久しぶりの大きなイベントということで、スタッ
プも段取りを思い出しながらあつたと準備をしました。当日
の朝はあいにくの雨。雨降りの開館記念日はこれまでに
あまりなく、久しぶりの開催で雨降りとは…と思いつ
つ、館外設営のフード販売関係者の方にはご迷惑
おかけしましたが、何とかスタートすることができまし
た。屋前には晴れ間も見え、たくさんの方にご来館
いただき、来館記念でお配りしていたお菓子は予想よりも早く品切れ
になりました。「どんぐりマルシェ」は販売だけではなくモノづくりなどの
体験もできるブースもあり、みなさん買い物以外にも楽しんでいただ
けたようです。来年も、今年の経験を活かし、来館者の方にも出展者の方
にも気持ちよく過ごしていただけるイベントを目指したいと思います。



開館記念日には美しい紅葉が見えます



クラフトバンドのクリスマスリース作りが体験できるブースもありました



今年のお菓子はこれ!

れきはく歴史文化講座ご案内

2023.1 - 2023.3

■特別展「学校の宝物」関連講座

講座番号①「学校の宝物」展のみどころ

日時:3月5日(日) 13:30~15:00
講師:富田 尚夫 (当館学芸員)

講座番号② 幕末維新期の八幡浜の教育者、清家堅庭

日時:3月11日(土) 13:30~15:00
講師:井上 淳 (当館学芸員)

講座番号③ 私立愛媛盲啞学校と森恒太郎 愛媛における障がい者教育のはじまり

日時:3月19日(日) 13:30~15:00
講師:柚山 俊夫氏 (伊予史談会副会長)

講座番号⑤ 史跡めぐり「南予の木造学校建築の魅力」

募集20名 日時:3月26日(日) 9:00~15:00(仮)
対象:愛媛県内の小学生~一般 ※小学生は保護者同伴
参加費:3,000円程度
【締切】:3月12日(日)

■歴史講座 13:30~15:00

講座番号⑦ 源氏物語講座 柏木と女三宮の運命と薫の誕生④

日時:3月25日(土) 講師:伊井 春樹 (当館名誉館長)

■古文書講座 13:30~15:00

講座番号④ 近世愛南の地誌『御荘旧記』を読む②

日時:1月21日(土) 講師:織田 浩史氏 (予土歴史文化研究会愛南支部支部長)

■民俗講座 13:30~15:00

講座番号③ 石鎚黒茶と高知暮石茶 一四国山地の発酵茶文化

日時:1月15日(日) 講師:大本 敬久 (当館学芸員)

■体験講座

講座番号⑧ 「一開張り ~かごバッグ作り~」

募集15名 日時:第1回(上張り)3月4日(土) 13:30~15:30

第2回(仕上げ)3月18日(土) 13:30~15:30

講師:木城 香代氏 (手仕事工房 雅楽多や主宰)

対象:小学生~一般 ※小学生は保護者同伴

参加費:3,000円

【締切】:2月18日(土)



受講時のお願い

- ①受付時に手指の消毒をお願いいたします。
- ②マスクの着用をお願いいたします。
- ③講座の写真撮影、録画・録音はご遠慮ください。

申込方法

希望する講座名・講座番号とご住所・お名前・年齢・電話番号など必要事項を記入し、開講日の1週間前までにハガキなどでお申し込みください。
※定員に満たない場合は、申込締切後にも受け付けます。

お問い合わせ

企画普及グループ・歴史文化講座係
TEL (0894) 62-6222 FAX (0894) 62-6161

展示スケジュール

2022.12-2023.3

2022 12	テーマ展 「石鎚山と石鎚黒茶」 2022年12月20日(火)~2023年1月29日(日)	常設展 えひめの歴史と文化 新常設展 密・空と海ー内海清美展
	テーマ展 「松山城と武家屋敷」 2022年12月20日(火)~2023年1月29日(日)	
	テーマ展 「収蔵品が語る伊予の転換期ー戦国から近世へー」 2022年12月20日(火)~2023年4月3日(月)	
2023 1	▶新春イベント 1月2日(月・振休)・3日(火)	
2023 2	特別展 「学校の宝物」 2023年2月11日(土・祝)~2023年4月3日(月)	
	テーマ展 「おひなさま」 2023年2月11日(土・祝)~2023年4月3日(月)	
	▶おひなさまイベント 2月25日(土)・26日(日)	

ご利用案内

■開館時間 9:00~17:30(入館は17:00まで)

■休館日 月曜日(下記カレンダーをご参照ください)

■観覧料

	区分	一般	団体(2割引)
常設展・ テーマ展	大人(高校生以上)	540円	440円
	中学生以下	無料	無料
	65歳以上	280円	230円
新常設展		観覧無料	

※特別展の観覧料はその都度定めます。 ※団体は20名以上です。
※テーマ展をご覧いただくには、常設展示観覧料が必要です。

Museum Calendar 2023.1-3

1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4				1	2	3	4			
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28					26	27	28	29	30	31	



愛媛県歴史文化博物館

MUSEUM of EHIME HISTORY and CULTURE

管理運営:指定管理者 いよてつ総合企画

〒797-8511 愛媛県西予市宇和町卯之町4-11-2 電話:0894-62-6222

【ホームページ】 <http://www.i-rekihaku.jp>

●発行日 令和5年1月1日 ●編集/発行 愛媛県歴史文化博物館

愛媛県歴史文化博物館

No.112

歴博だより

Museum of EHIME History and Culture News

令和4年度特別展 学校の宝物



申義堂の内部(西予市)

令和5年2月11日(土・祝)~4月3日(月)

1872年(明治5)、小学校などの設置を定めた学制が公布されました。学制公布から既に150年。その長い年月、愛媛県内にも多くの学校が誕生しました。本展では愛媛の学校教育の歴史を振り返るとともに、学校から出土した埋蔵文化財や学校に伝わった歴史資料を紹介します。多くの人にとって身近な学校を舞台に、新しい発見をしていただければ幸いです。

【観覧料】大人(高校生以上)…450円(370円)、小中学生・65歳以上…250円(210円)

※()は20名以上の団体料金。

歴史

高野長英画像



この肖像画、教科書で見たことがあるという人もいらっしゃるかもしれません。^{つばきちんざん}椿椿山が描いた高野長英像で、現在は高野長英記念館が所蔵しており、国の重要文化財にも指定されています。本資料は、^{おおつみじよてん}大槻如電がその原本を借り出して模写させたものです。如電は江戸時代後期の蘭学者^{げんたく}大槻玄沢を祖父にもち、蘭学関係資料の収集家としても知られる人物。女流画家の森鏡子が模写に当たっていますが、長英の厳しい表情など原本に忠実な模写がされていることがうかがえます。

原本と大きく異なるのは、肖像の上部に賛が加えられていること。この賛は、如電の依頼により、長英の漢詩をかつて宇和島藩8代藩主であった伊達宗城^{むねなり}が書いたものです。『夢物語』で幕府の対外政策を批判して投獄されていた長英は、弘化元(1844)年、牢舎の火災により逃亡、嘉永元(1848)年に宗城に匿われる形で宇和島を訪れ、砲台の設計や洋書の翻訳に従事しています。また、蘭学塾の五岳堂を開き、若い藩士に蘭学を教えています。不思議な縁で長英と結ばれた宗城の賛が入ることで、新たな価値が吹き込まれた史料ともいえます。

(学芸課長 井上 淳)

※「高野長英画像」は、特別展「学校の宝物」で展示します。

年代：明治時代
法量：本紙121.0cm×48.5cm
所蔵：当館蔵

歴史

豊臣秀吉朱印状（加藤嘉明宛）

慶長の役の激戦で知られる蔚山籠城戦^{ウルサン}の後、豊臣秀吉が加藤嘉明へ宛てた朱印状です。

慶長2(1597)年12月22日から翌3年1月4日にかけて、加藤清正・浅野幸長たちが守る蔚山城が、明・朝鮮軍に包囲され連日攻撃を受けました。城の完成目前でいまだ準備の整わない中での籠城戦だったため、戦況は厳しくなる一方で、年末には和睦交渉の呼びかけもありましたが、年明け早々に嘉明も加わる援軍が到着したため、明・朝鮮軍は撤退しました。本状にも、各将が後巻として押し出したところ敵が退いたと記されています。

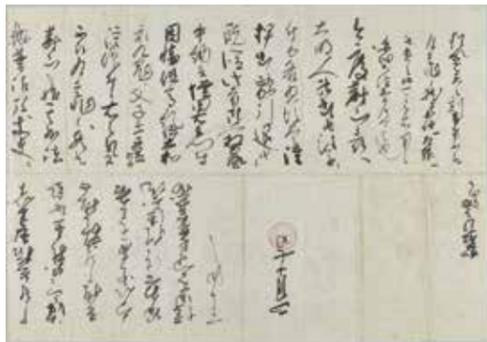
また、本状で秀吉は、毛利輝元・増田長盛^{いなば}・^{たじま}因幡衆・但馬衆・紀伊衆・大和衆^{くき}・九鬼父子等へも援軍命令を出していたが、敵撤退の報告を受けて取りやめたと伝えています。その上で、諸城の普請を丈夫にし、食料・武器も十分に蓄えておくように命じており、対策を怠らない秀吉の姿勢がうかがえます。本状からは、蔚山籠城戦をめぐる緊迫した状況が伝わってきます。

しかし、秀吉の意向とは裏腹に、この後諸将は消極姿勢に転じて蔚山城・順天城^{スンチョン}などの放棄案を連判で上申して、秀吉の勘気^{かんき}をこうむることになります。そのような中、嘉明はこの連判に加わらなかったため、加増にあずかり10万石の大名へと成長することになりました。

(専門学芸員 山内 治朋)

※「豊臣秀吉朱印状」は、テーマ展「収蔵品が語る 伊予の転換期—戦国から近世へ—」で展示します。

年代：慶長3(1598)年正月17日
法量：46.5cm×65.8cm
所蔵：当館蔵



テーマ展のご案内

常設展観覧料
(テーマ展含む)

大人(高校生以上)：540円(440円) / 65歳以上：280円(230円)
中学生以下：無料 ※()は20名以上の団体料金。

石鎚山と石鎚黒茶

愛媛県西条市に伝わる石鎚黒茶は、徳島県の阿波晩茶、高知県の碁石茶とともに、独特の酸味を有する後発酵茶として知られています。石鎚黒茶は現在では西条市内の3団体が製造するのみとなり、平成30年3月にその製造技術が国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されました。

西条市教育委員会ではこれを受け、貴重な民俗文化財として後世に継承していくために、令和元年度から令和3年度まで「石鎚黒茶製造技術調査事業」を実施しています。当館学芸員も調査委員として参加し、石鎚黒茶の製造工程を記録するとともに、その流通や歴史的背景などの調査を行い、令和3年度末に報告書が刊行されました。

本展では、石鎚黒茶が製造されてきた石鎚山麓の暮らしや歴史、文化に関する資料を展示するとともに、石鎚黒茶製造技術を写真パネル等で紹介し、民俗文化財としての石鎚黒茶文化を紹介します。



古代石鎚山の信仰を記す「日本文徳天皇実録」(当館蔵)

令和4年 12月20日(火) ~ 令和5年 1月29日(日)

- 会場：企画展示室 ●料金：常設展観覧料
- 関連講座：「石鎚黒茶と高知碁石茶 -四国山地の発酵茶文化-」
令和5年1月15日(日) 13:30~15:00

松山城と武家屋敷



西堀端の武家屋敷(松山城下図屏風) 当館蔵

慶長5(1600)年、関ヶ原の合戦により伊予半分の20万石を与えられた加藤嘉明が、松山平野の中心にある丘陵の勝山に築城したのが松山城です。松山城には蒲生忠知を経て、徳川家康の甥に当たる松平定行が入り、以降は久松松平家が幕末に至るまで居城として松山藩を治めました。本展では西瀬戸内海を通じて九州地方をにらむ西国支配の要城、松山城の歴史を取り上げるとともに、本丸のある勝山を取り巻くように配置されていた武家屋敷に焦点を当てます。武家屋敷の外観を描いた松山城下図屏風、内部の間取りを描いた絵図、さらに近年の発掘調査の成果も織り交ぜながら、江戸時代に生きた松山城下の武士の暮らしを紹介いたします。

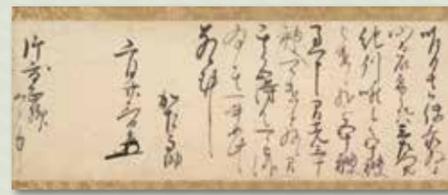
令和4年 12月20日(火) ~ 令和5年 1月29日(日)

- 会場：考古展示室 ●料金：常設展観覧料

収蔵品が語る 伊予の転換期 —戦国から近世へ—

戦国時代が終わり江戸時代を迎える中世から近世への時代の転換期、伊予では四国平定を経て豊臣秀吉による大名支配が始まり、関ヶ原合戦後は徳川政権下で領国経営の安定化が進められ、最終的に伊予八藩が成立します。この時期、伊予では大名の交替が繰り返され、現存する資料も限られているため、複雑で分かりにくい反面、伊予が統一政権の下で変革を迎え、多様な道筋を歩みながら太平の世を迎えるという興味深い時代でもあります。

本展では、当館収蔵品の中から、乱世から太平へと移り変わる時代の伊予や大名の姿を伝える資料について、近年の新収蔵品も交えながら紹介します。



加藤嘉明書状(片桐且元宛) 慶長11(1606)年(当館蔵)
加藤嘉明が江戸城普請に「石船」30艘を派遣することを、豊臣家家老片桐且元に伝えた書状。

令和4年 12月20日(火) ~ 令和5年 4月3日(月)

- 会場：文書展示室 ●料金：常設展観覧料

おひなさま



御殿飾り(曲水の宴) 江戸時代後期/当館蔵

春の訪れとともに、三月三日のおひなさまを飾る上巳の節句がめぐってきます。上巳の節句は、けがれを祓い人形を流す風習と平安時代の貴族の女兒の人形遊びとが結びついて始まったと考えられています。最初は簡素な人形でしたが、江戸時代に年中行事としてひなまつりが定着すると、次第に凝ったつくりになり、付属の人形も増えて華やかなものになっていきました。

当館では今年もひなまつりを祝って、西条藩松平家の雛飾りをはじめ、次郎左衛門雛、古今雛、御殿飾り、明治天皇の変わり雛など、多彩なおひなさまの姿を紹介します。春のおだやかな一時、博物館の愛らしいおひなさまをどうぞお楽しみください。

令和5年 2月11日(土・祝) ~ 4月3日(月)

- 会場：考古展示室 ●料金：常設展観覧料